



選別の様子(下妻梨第一共同選果場)



人の目で確認される品質



ベトナムでの輸出商談会



輸出前の検査をする検疫官



下妻の梨



光センサーで糖度と内部の検査



現地での試食PRの様子



ベトナムで人気のシモンちゃん



現地報道された販売イベント

下妻の梨ベトナムへ

下妻の梨が全国に先駆けベトナムへ初販売輸出されました。
8月16日、「初荷」の幸水約11トン輸出、今年度は合計約100トン輸出計画
本格化したベトナムへの輸出の取り組みを紹介します。

特集 下妻の梨ベトナムへ



8月16日に行われた出発式

今後のベトナムへの輸出は、ベトナムでの先行者利益を活かした、下妻の梨のブランド化を狙った効果があり、来年度は200〜300トンの輸入の要望がある状況です。今後も引き続き、生産者・JA常総ひかり・県・市が連携して、ブランド力を活かし、経済成長が著しく、梨の市場として有望なベトナムへの輸出を増やすことで、下妻の梨の発展が期待されます。

今後のベトナムへの輸出

また、シモンちゃんも人気があり、プロモーションの柱になっていて、順調な輸出スタートが出来ています。今年度は、「初荷」の幸水に続き、9月から、豊水、あきづき、新高の順に輸出され、合計で約100トンの輸出を計画しています。9月23日には、ホーチミンの日系大型ショッピングモールにおいて、ジェットロ・ジャパンフェア2017の一環として、下妻の梨の輸出本格化を記念したセレモニー及び試食販売プロモーションも予定しており、関係者などが参加して、ベトナム消費者へ試食宣伝し、会場を盛り上げる予定です。

今年度のベトナムへの輸出計画

今年1月、ベトナムが日本産ナシの輸入を解禁したことを受け、3月末に、生産者とJA常総ひかりが中心となり、県・市が連携して、生産するナシ園の事前登録など厳しい条件を満たし、冷蔵貯蔵した「豊水」を通関などを含め、実際の物流をたどり、ベトナムに到着することを検証。そして、7月下旬には、生産者と同JAが、物流業者との会議を重ね、ベトナム・ホーチミンで開催されたジェットロ主催の商談会に参加して、現地小売店バイヤーとの商談に力をいれ、初年度で100トンもの輸出量を確保することができました。8月16日、下妻の梨が全国に先駆けベトナムへ初販売輸出。記念すべき「初荷」となる幸水は、約11トン輸出され、ベトナム・ホーチミンの量販店を中心に約30店舗で販売。続いて、8月23日には、ホーチミンの高島屋において、初販売を記念したセレモニーや試食販売などのプロモーションが実施されました。下妻の梨は国外に向け、平成25年度からシンガポール・タイへの輸出に着手し、平成27年度には、タイ・マレーシアなどへ合計8トン輸出。5年目となった本年度は、輸出量が100トンになる見込みで、下妻の梨の輸出が本格化しています。

ベトナムへの輸出が本格化